



“オープンな開発モデル、標準的な管理APIならびに、ハイパーバイザをセキュアにするための活発なコミュニティ開発により、Xenは独自に優れたハイパーバイザの地位を保ち続けています”

Ian Pratt
Creator of Xen and Founder of Xen.org

Overview

Why Xen Hypervisor?

- Global open source developer community – growing pool of virtualization expertise
- Innovation engine for next generation virtualization platform
- Platform for industry leading virtualization solutions

Information at www.xen.org

サーバ利用率の向上、サーバ集約化、サーバ統合による複雑さの解消、トータルコストの減少など、サーバ仮想化の役割はますます高まっています。Xen® ハイパーバイザは、Windows®, Linux®, Solaris® ならびに様々なバージョンの BSD OS をサポートする、最速でセキュアな仮想システム向けハイパーバイザです。

Xen の仮想化は、Xen ハイパーバイザと呼ばれるレイヤーを物理レイヤーとサーバおよび、デスクトップの OS レイヤーに挟み込むことで実現します。これにより、1 台の物理サーバが複数の仮想サーバとして生まれ変わり、効率的な OS 動作が可能になるにもかかわらず、その OS ではそれまで物理サーバで使用していたアプリケーションをそのまま動作させることができます。

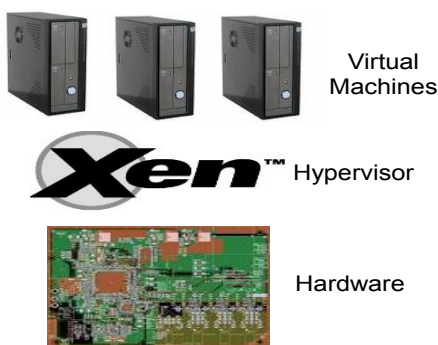
Xen ハイパーバイザは、独自のオープンソースコミュニティにより開発が続けられており、メンバーには AMD, Citrix, Dell, 富士通, HP, IBM, Intel, NEC, Novell, Red Hat, Samsung, SGI, Sun, Unisys など、50 以上の著名なデータセンタソリューションベンダのエンジニアたちが参加しています。Xen は、GNU General Public License (GPL2)にてライセンスされ、ソースやオブジェクトの利用は無償です。Xen は今後も、企業内の仮想システムに向けた Xen エコシステムを早期に実現するため、オープンソースにより常に連携して開発を続けていきます。



テクノロジー概要

Xen ハイパーバイザは、仮想マシン(VM)内の様々なサービス、例えば、ハードウェアアクセス、VM 間通信、VM 起動/停止など基本的なサービスを管理します。この管理 VM は、システムブートにより起動され、ハードウェア上の全てのデバイスをセキュアに管理します。

Xen ハイパーバイザはさらに、準仮想化(paravirtualized)技法により、ハードウェアで仮想化をサポートしていない物理マシンであっても仮想化プラットフォームとして実現可能なソリューションを提供しています。



Xen プロジェクトのミッション

Xen.org コミュニティは、以下のミッションを目指します：

- オープンソースハイパーバイザの業界標準を作成します
 - 様々なベンダの製品の”コアエンジン”に利用可能
- Xen が、常に業界の先端的なパフォーマンスを発揮できるようにしていきます
 - 新しいハードウェアの仮想機能を素早く対応していきます
- OS ベンダに対して準仮想化を支援していきます
- Xen の安定性と品質向上のため、バージョンアップを継続します
- 大規模から小規模なシステムまで、様々な CPU をサポートします
- イノベーションを促進します
- 相互接続性を確保します

Join the Xen Community at <http://www.xen.org>

About Xen.org

Xen.org is the home of the open source Xen® hypervisor, a fast, secure industry standard code base for operating system virtualization. Founded and led by Ian Pratt, the community benefits from the contributions of senior engineers from more than 50 leading hardware, software, and security vendors. Xen.org is run for the benefit of the community by the Xen Project Advisory board, which is drawn from leading contributors to the project. For more information, visit www.xen.org.